

**製品名: AKAP6 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab06729**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	255kDa

**抗原情報**

遺伝子名	AKAP6
別名	AKAP100 KIAA0311
遺伝子 ID	9472.0
SwissProt ID	Q13023
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。AA 範囲: 30-110

**背景**

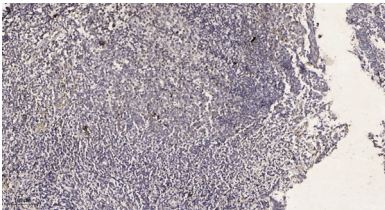
A キナーゼアンカータンパク質 (AKAP) は、構造的に多様なタンパク質群であり、プロテインキナーゼ A (PKA) の調節サブユニットに結合し、ホロ酵素を細胞内の特定の場所に固定するという共通の機能を有する。この遺伝子は AKAP ファミリーのメンバーを

コードしている。コードされているタンパク質は、脳の様々な領域、心筋、骨格筋で高発現している。特に筋小胞体と核膜に局在し、PKA を核膜または筋小胞体に固定する役割を担っている。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],ドメイン: RII- $\alpha$  結合部位は両親媒性ヘリックスを形成すると予測され、R サブユニット二量体上の相補的な表面を介してタンパク質間相互作用に関与する可能性がある。 ,機能: プロテインキナーゼ A の II 型調節サブユニットに結合し、それらを核膜または筋小胞体に固定 / 標的化する。多タンパク質複合体の組み立てにおけるアダプターとして機能する可能性がある。 ,類似性: 2 つのスペクトリンリピートを含む。 ,細胞内局在: 心筋。複数の標的シグナルの関与により、正確な細胞内標的化が可能となる。これらは、塩基性および疎水性アミノ酸が豊富な繰り返しモチーフ、パルミトイル化/ミリストイル化モチーフ、または選択的スプライス標的配列である可能性があります。 ,サブユニット:PKA の RII サブユニット、ホスファターゼ 2B (カルシニューリン) 、AKAP79 と相互作用します。 ,組織特異性:心筋および骨格筋で高く発現し、次いで脳で高く発現します。 ,

## 研究分野

-

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°C で一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。